(財)八尾市文化財調査研究会報告93

Ⅰ　田井中遺跡(第20次調査)
Ⅱ　高安古墳群(第４次調査)
Ⅲ　東弓削遺跡隣接地(第15次調査)

2006

財団法人 八尾市文化財調査研究会

はしがき

八尾市は大阪府東部に位置し、河内平野のほぼ中央部にあたり、西に上町台地、東に生駒山系の景観をみる肥沃な土壌を有する地域であります。

本市は恩智遺跡や八尾南遺跡をはじめとし、古来より先人達が大地に刻んできた文化遺産が数多く残されている地域であります。しかしながら、近年の都市周辺開発の進展により、その貴重な文化遺産が人目に触れることなく日々どこかで消滅しているのも周知の事実であります。

そこで我々、財団法人八尾市文化財調査研究会は、開発に伴う発掘調査、調査研究を通じて八尾市に眠る文化遺産を明らかにし、後世に伝えていくことが課せられた責務と考えています。

本書は、公共事業に伴う事前の遺構確認調査です。田井中遺跡第20次調査(平成16年度)、高安古墳群第４次調査(平成17年度)、東弓削遺跡(平成18年度)の３件の調査成果を収録したものであります。

本書が地域史解明はもとより、埋蔵文化財の保護・普及の一助となれば幸いです。

最後に、発掘調査の開始当初から本報告書の刊行に至るまで、数々のご尽力を頂きました関係各位の皆様方に心より御礼申し上げるとともに、今後なお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年11月

財団法人　八尾市文化財調査研究会
理事長　岩崎健二

序

1、本書は財団法人八尾市文化財調査研究会が平成16・17・18年度に実施した発掘調査の成果報告を収録したもので、内業整理及び本書作成の業務は各現地調査終了後に着手し、平成18年11月をもって終了した。
1、本書に収録した報告は、下記の目次のとおりである。
1、本書掲載の地図は、大阪府八尾市役所発行の2,500分の1（平成８年７月発行）・八尾市教育委員会発行の『八尾市埋蔵文化財分布地図』（平成13年度改訂版）をもとに作成した。
1、本書で用いた高さの基準は東京湾標準潮位である。
1、本書で用いた方位は磁北及び座標北（国土座標第Ⅵ系）を示している。
1、土色については、『新版　標準土色帖』1996　農林水産省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所色票監修を使用した。
1、各調査に際しては、写真・カラースライド・実測図を多数作成している。各方面での幅広い活用を希望する。

目　次

はしがき
序
八尾市埋蔵文化財分布図
Ⅰ　田井中遺跡第20次調査（ＴＮ2004－20）……1
Ⅱ　高安古墳群第４次調査（Ｔ2005－４）……7
Ⅲ　東弓削遺跡第15次調査（ＨＹ2006－15）……11
報告書抄録

Ⅰ　田井中遺跡第20次調査（ＴＮ2004－20）

例　　言

1．本書は大阪府八尾市田井中３丁目101番地で実施した校舎増築工事に伴う発掘調査の報告書である。

1．本書で報告する田井中遺跡第20次調査（ＴＮ2004－20）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会作成の指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。

1．現地調査は、平成17年３月１日～３月４日（実働２日）にかけて、岡田清一を担当者として実施した。調査面積は約16㎡を測る。なお、調査においては都築聡子・徳谷尚子（五十音順）が参加した。

1．内業整理は現地調査終了後に着手し、平成17年３月15日に終了した。

1．本書の図面トレースおよび執筆・編集はすべて岡田が行った。

本　文　目　次

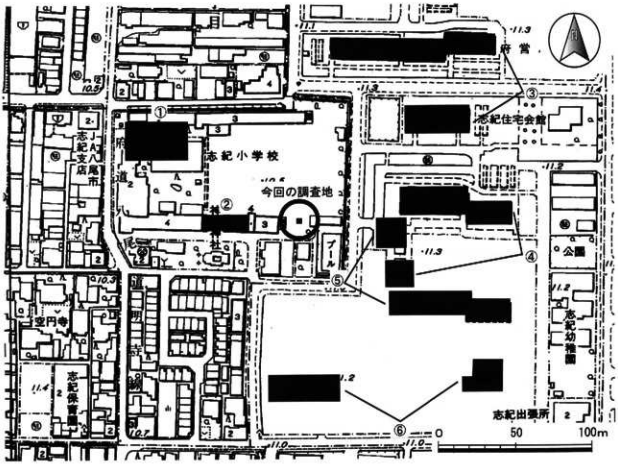
1．はじめに……1
2．調査概要……2
　1）調査の方法と経過……2
　2）基本層序……2
　3）検出遺構と出土遺物……3
3．まとめ……3

Ⅰ　田井中遺跡第20次調査（ＴＮ2004－20）

１．はじめに

田井中遺跡は大阪府八尾市の南部に位置し、旧大和川の主流である長瀬川左岸の沖積地上に立地する。現在の行政区画では田井中１～２・４丁目、志紀町西２・３丁目、空港１丁目一帯の東西約1.0km、南北0.6kmがその範囲となる。当遺跡の周辺には、北に老原遺跡、西および南に木の本遺跡、北東に志紀遺跡が隣接している。

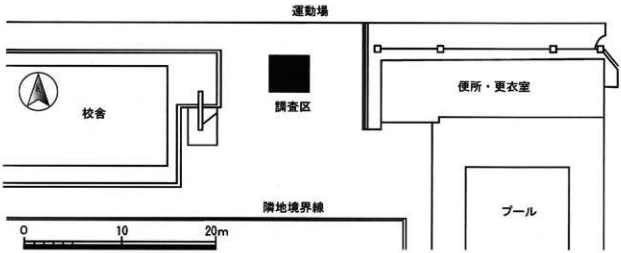
当遺跡発見の契機となったのは、昭和50年の陸上自衛隊八尾駐屯地内における下水道工事の際に、弥生時代前期の土器が出土したことによる。その後、昭和57年度から大阪府教育委員会、八尾市教育委員会、(財)大阪府埋蔵文化財協会、(財)大阪府文化財調査研究センター、当研究会によって数十次に亘る調査が実施され、縄文時代晩期以降からの複合遺跡であることが判明した。平成５年度以降は、陸上自衛隊八尾駐屯地内の建替え工事や八尾空港北濠の平野川改修工事に伴う大規模な発掘調査により、弥生時代前期～中期にかけての遺構・遺物が多く検出された。また、今回の調査地に近接する東側の志紀遺跡においては、昭和58年度以降からの数十次に亘る府営・市営住宅建替え工事に伴う調査によって、弥生時代から現代におよぶ水田遺構が連綿と検出されている。



第１図　調査位置および周辺図（S＝1/2500）

表１　周辺における既往の調査一覧

No.	遺跡名	調査機関	調査年度	調査原因	調査面積(㎡)
①	田井中	当研究会	平成８年	小学校屋内運動場	600
②	〃	〃	平成10年	小学校校舎建替え	286
③	志紀	府教委	昭和60年	府営住宅、水道設備、防火水槽	
④	〃	〃	平成３年	府営住宅、受水槽	2,454
⑤	〃	〃	平成４年	府営住宅、防火水槽、公共下水道	2,261
⑥	〃	(財)大阪府埋蔵文化財協	平成５年	市立図書館、府営住宅	2,000



第２図　調査区位置図(S＝1/400)

２．調査概要

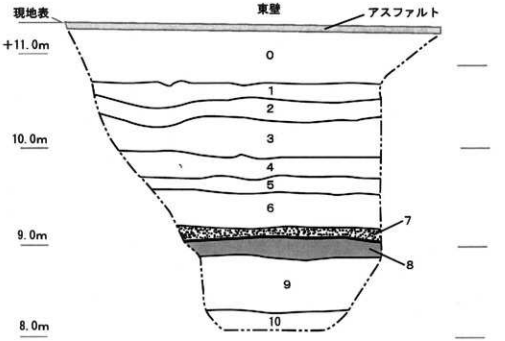
１）調査の方法と経過

今回の調査は、志紀小学校校舎増築工事に伴う田井中遺跡第20次調査である。調査区の規模は平面４ｍ四方で、深度は工事がおよぶ現地表(T.P.＋11.4m)下3.2m前後である。掘削は、現地表から約0.8mの地層を重機により排除した後、以下の2.7m前後の地層について重機と人力併用で行い、遺構・遺物の検出に努めた。

２）基本層序

現地表の標高はT.P.＋11.3m前後を測る。現地表から60cm前後は小学校建設時に伴う盛土(第０層)で、その下層には20cm前後を測る近・現代の耕作土(第１層)が堆積する。以下、今回の調査で確認できた第２～10層の９層について記述する。

第２層は青灰色(5B5/1)シルトで、層厚20cm前後を測る。第３層は浅黄橙色(7.5YR8/6)～明青灰色(10BG7/1)砂質シルトで、層厚40cm前後を測る。上部は酸化鉄分が多く沈着する。第４層は暗青灰色(5B4/1)シルトで、層厚20cm前後を測る。やや粘性を有する。第５層は灰色(N4/0)粘土質シルトで、層厚15cm前後を測る。第６層は灰色(N6/0)細粒砂混じり粘土質シルトで、層厚40cm前後を測る。粘土質シルトに薄く細粒砂が混在する。第７層は灰白色(N8/0)細粒砂で、層厚10cm



0：盛土
1：N3/0暗灰色シルト
2：5B5/1青灰色シルト
3：7.5YR8/6浅黄橙色
～10BG7/1明青灰色砂質シルト
4：5B4/1暗青灰色シルト
5：N4/0灰色粘土質シルト
6：N6/0灰色細粒砂混じり粘土質シルト
7：N8/0灰白色細粒砂
8：N5/0灰色粘土質シルト
9：N3/0暗灰色粘土
10：2.5GY6/1オリーブ灰色シルト

第３図　東壁面図（S＝1/40）

前後を測る。含水量が多い。本層は、当地の西側で実施された第18次調査（ＴＮ98－18）を含め、周辺における既往の調査結果から古墳時代後期以降の洪水砂に比定されるものと思われる。第８層は灰色(N5/0)粘土質シルトで、層厚20cm前後を測る。本層は、先述の第18次調査結果と照合すると古墳時代中期の水田耕土に対応することが予想される。第９層は暗灰色(N3/0)粘土で、層厚60cm前後と比較的厚い。層内には植物遺体、炭酸鉄が含まれる。第10層はオリーブ灰色(2.5GY6/1)シルトで、層厚20cm以上を測る。

3）検出遺構と出土遺物

今回の調査では、遺構・遺物ともに検出を見なかったが、第７層が西側の第18次調査で確認された古墳時代中期の水田耕土と層位的に合致するものと考えられる。そしてそれを覆う上層の第６層が古墳時代後期以降の洪水砂に対応するものと思われる。

３．まとめ

今回の調査地である志紀小学校内では、既述の第14次および第18次調査において弥生時代中期～後期にかけての溝・流路、弥生時代後期末～古墳時代にかけての水田遺構が検出されている。今回の遺構確認調査では、西側の第18次調査地で検出された古墳時代中期の水田耕土に対応すると考えられる地層を確認することができた。また、弥生時代の遺構については、深度上の事情から調査することができなかったが、近接する先の２件の調査は言うに及ばず、東部の志紀遺跡内

で大阪府教育委員会・(財)大阪府埋蔵文化財協会によって実施されている調査においても該期の遺構が検出されており、位置的関係から当地にも存在するものと思われる。

参考文献

・成海佳子・古川晴久　1996「18．田井中遺跡第14次調査（ＴＮ96－14）」『平成８年度　(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』財団法人　八尾市文化財調査研究会

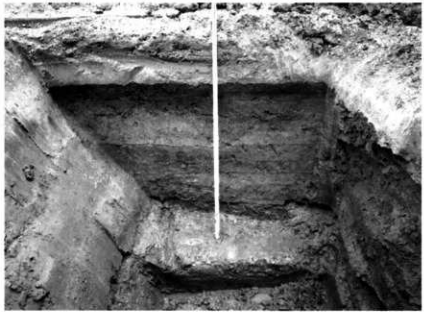
・成海佳子　1998「17．田井中遺跡第17次調査（ＴＮ98－17）」『平成10年度　(財)八尾市文化財調査研究会事業報告』財団法人　八尾市文化財調査研究会

・西川寿勝　1995．３『志紀遺跡』(財)大阪府埋蔵文化財協会調査報告書第91輯』(財)大阪府埋蔵文化財協会

図版一

調査地近景（北西から）

東壁面（現地表下3.0m前後）



同上（現地表下3.5m前後）

Ⅱ　高安古墳群第４次調査（Ｔ2005－４）

例　　言

1．本書は、大阪府八尾市恩智中町５丁目地内で実施した道路拡幅工事に伴う遺構確認調査の報告書である。

1．本書で報告する高安古墳群第４次（T2005－４）の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。

1．現地調査は、平成17年10月31日～11月７日（実働５日間）に、坪田真一を担当者として実施した。調査面積は約40㎡を測る。

1．現地調査に参加した調査補助員は、市森千恵子・曹　龍・田島宜子・村井俊子・村田知子・若林久美子である。

1．内業整理は現地調査終了後に随時行い、平成17年12月をもって終了した。

1．本書の執筆・写真撮影及び編集は坪田が行った。

本　文　目　次

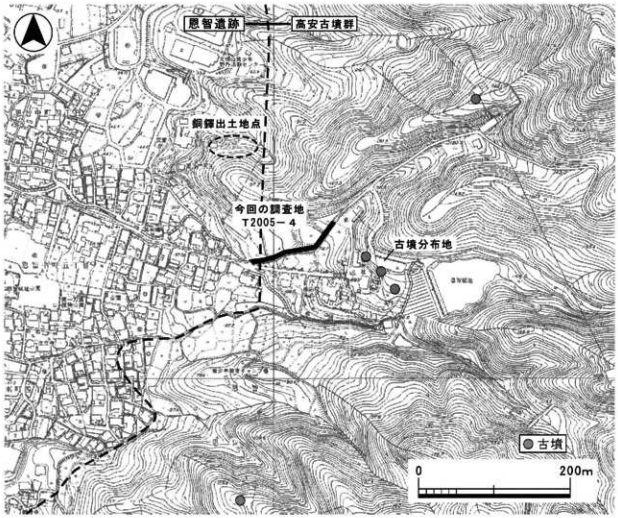
1．はじめに……7
2．調査概要……8
　1）調査方法と経過……8
　2）基本層序と検出遺構……8
3．まとめ……8

Ⅱ　高安古墳群第４次調査(T2005－４)

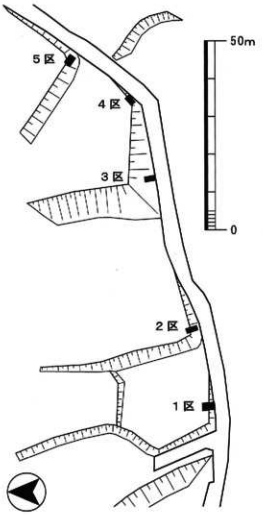
１．はじめに

高安古墳群が位置する大阪府八尾市東部の生駒山地西麓一帯は、丘陵地や小規模な扇状地が複雑に融合した地形を呈している。古墳時代では前期から終末期の古墳が確認されており、これらは総称して高安古墳群と呼ばれている。後期～終末期では、服部川地区を中心に、６世紀後半を築造のピークとする小規模な円墳(直径10～25m、高さ３～５m)が密集する群集墳が形成されており、一般には『高安千塚』の名前で知られている。また扇状地先端部から沖積地には縄文時代からの遺跡（恩智遺跡・水越遺跡等）や弥生時代からの遺跡(郡川遺跡・大竹西遺跡等)が営まれている。

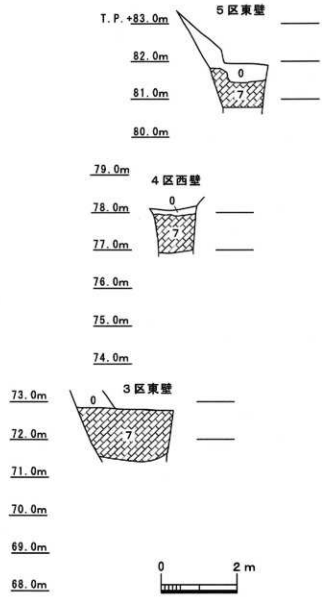
今回の調査地である恩智地域においては古墳の分布は少なく、調査地付近では南東部の恩智神社内に３基が確認されているにすぎない。今回の調査地は、西に広がる恩智遺跡との境界に位置しており、また銅鐸２点（流水文銅鐸・袈裟襷文銅鐸）が出土した通称「垣内山」・「都塚山」の南麓にあたる。

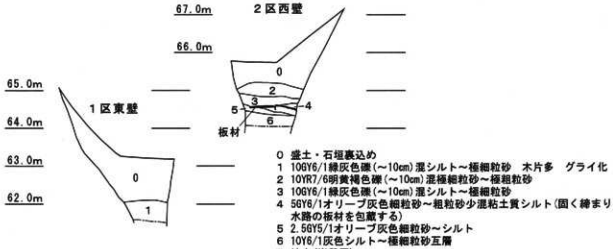


第１図　調査地位置図及び周辺図(S=1/5000)



第２図　調査区設定図（S=1/1000）





0 盛土・石垣裏込め
1 10GY6/1緑灰色礫（～10cm）混シルト～極細粒砂　木片多　グライ化
2 10YR7/6明黄褐色礫（～10cm）混極細粒砂～極粗粒砂
3 10GY6/1緑灰色礫（～10cm）混シルト～極細粒砂
4 5GY6/1オリーブ灰色細粒砂～粗粒砂少混粘土質シルト（固く締まり水路の板材を包蔵する）
5 2.5GY5/1オリーブ灰色細粒砂～シルト
6 10Y6/1灰色シルト～極細粒砂互層
7 地山（岩盤層）

第３図　調査区断面図（S=1/100）

2．調査概要

1）調査方法と経過

今回の調査は、道路拡幅工事に先立って実施した遺構確認調査で、当調査研究会が高安古墳群内で実施した第４次調査（T2005－４）にあたる。延長約130mの工事区間内に５箇所のトレンチ（西から１～５区）を設定し調査を実施した。調査地は恩智神社の北側を東西に通る通称『恩智新道』と呼ばれている道路で、大正14年頃に開通したとされる。東に登る急斜面となっており北側には石垣が設けられている。調査に当たってはこの石垣を除去し、現地表（T.P.+63.0～82.0m）下1.2～1.7mについて、機械掘削及び人力掘削を併用して調査を行った。

調査では、八尾市土木建設課より提供された道路台帳図に記載されている標高値を使用した。

2）基本層序と検出遺構

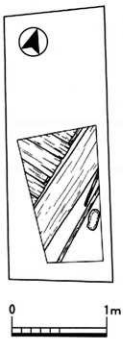
各調査区の北側には石垣が設置されており、その上部には平坦面が形成されている。石垣の裏側は、調査範囲においてはすべて盛土層となっている。このことから平坦面については、北斜面を削り南の谷側に盛土することで形成されていると考えられる。

東部の３～５区では、表土（アスファルト・盛土）直下が地山（岩盤層＝風化花崗岩層）となっている。

西部の１・２区は、盛土より下層は基本的に水成層となっている。１区で池状の堆積、２区で北東－南西方向の木組み遺構を検出した。

１区は盛土直下に木片を多く含みグライ化したヘドロ状の水成層が続いており、池状を呈している。

２区の木組み遺構は、東側については両側板に蓋をした形状で、北東－南西方向に延びている。蓋板は幅約33cm・長さ1.4m以上を測る。東側板の外側には補強のためと考えられる石材が見られる。そして西側には、幅15～20cm程度の板が直交方向に並べられている。調査範囲では当遺構に伴う掘方は認められず、第４層中に構築されている状況である。水路的な遺構と考えられ、第４層が固く締まる層相であることから埋め込まれた暗渠の可能性がある。１区の池との有機的な関連も考えられよう。下位の第５層にはガラス片が含まれていることから、時期的には近世～近代に帰属するものである。なお付近の住人によると１～２区辺りは池であったとのことである。



第４図　２区平面図
(S=1/40)

3．まとめ

今回の調査では古墳に関連するような遺構・遺物は検出されなかった。北側の斜面は盛土による構築で、また東部では盛土直下が地山という状況である。西部では近世～近代の溜池やこれに伴う可能性のある水路状の遺構が検出された。

参考文献

高安城を探る会2001『高安城と烽－基本資料集』

図版一

1区東壁

2区水路（西から）

3区東壁

4区西壁

4区東壁

調査地遠景（西から）

Ⅲ 東弓削遺跡隣接地第15次調査(ＨＹ2006－15)

例　　言

1．本書は、大阪府八尾市曙町２丁目で実施した八尾市廃棄物処理センター建替工事に伴う遺構確認調査の報告書である。
1．本書で報告する東弓削遺跡隣接地の発掘調査業務は、八尾市教育委員会の指示書に基づき、財団法人八尾市文化財調査研究会が八尾市から委託を受けて実施したものである。
1．現地調査は、平成18年８月１・２日に、坪田真一を担当者として実施した。調査面積は18㎡を測る。
1．現地調査に参加した調査補助員は、青山・鈴木・藤井である。
1．内業整理は現地調査終了後に随時行い、平成18年８月をもって終了した。
1．本書の執筆・写真撮影及び編集は坪田が行った。

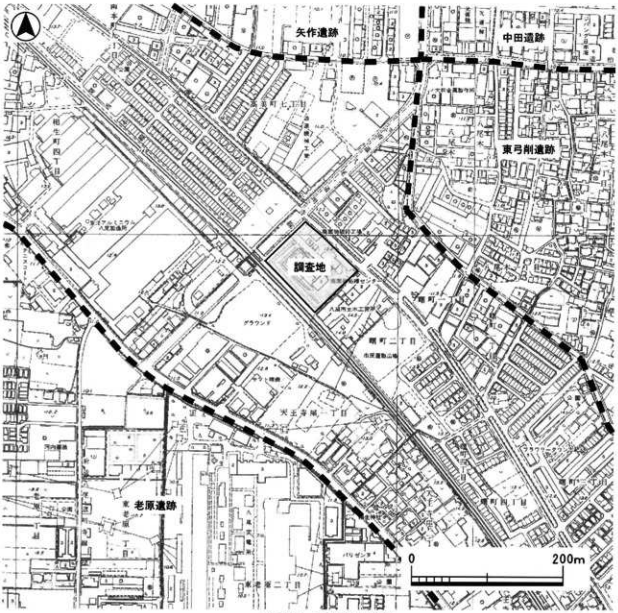
本　文　目　次

1．はじめに……11
2．調査概要……12
　1)調査方法と経過……12
　2)基本層序……12
3．まとめ……12

Ⅲ　東弓削遺跡隣接地第15次調査（ＨＹ2006－15）

1．はじめに

調査地は、八尾市の中央やや南にあたり、北西方向に流下する現在の長瀬川と、その左岸に平行するＪＲ関西本線との間に位置する。地理的には旧大和川の主流であった長瀬川により形成された自然堤防上にあたるため、周辺の平地部分に比して現地表面は４～５ｍ高くなっている。この自然堤防を境に、調査地の北東部には東弓削遺跡・矢作遺跡・中田遺跡、南西部には老原遺跡が沖積地上に広がっている。また当地は宝永元年(1704)の大和川付替え後に、長瀬川河川敷に開発された天王寺屋新田であった。



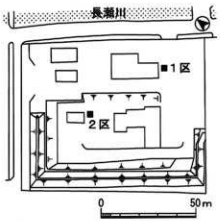
第１図　調査地位置図

2．調査概要

1）調査方法と経過

今回の調査は、八尾市廃棄物処理センター建替工事に先立って実施した東弓削遺跡隣接地遺構確認調査である。工事範囲に3.0×3.0m－2箇所(北から1・2区)のトレンチを設定し調査を実施した。廃棄物処理センターの構造上、窪地に位置する2区は、1区の現地表面より約5.8m下位に位置する。

調査に当たっては重機・人力掘削を併用して実施した。また調査で使用した標高値は、工事図面に記載されている仮BM(T.P.＋13.617)を基準とした。



第2図　調査区位置図

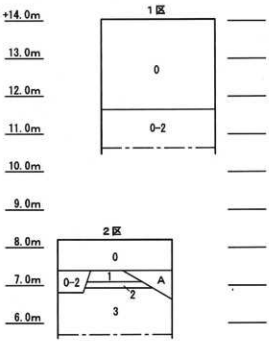
2）基本層序

1区

現地表(T.P.＋14.0m)以下約3.4m(T.P.＋10.6m)までを調査した。0層は砂層優勢の盛土である。0－2層はゴミの堆積で、掘削限界以下に及んでおり、下位の状況は不明である。なお廃棄物処理センター築造以前にあたる昭和36年の地図によると、当時の地表面は約T.P.＋10.8mとなっている。

2区

現地表(T.P.＋8.2m)以下約2.5m(T.P.＋5.7m)までを調査した。2区は現地表面が低いため地下水位が浅く、地表のアスファルト亀裂部分から湧水が認められる程であった。0層は盛土、0－3層は既設ヒューム管埋土である。1層以下は粘土～シルトの互層状を呈し水成層と考えられる。1層は5BG6/1青灰色粘土、2層は7.5GY7/1明緑灰色シルト～粘土質シルト、3層は10G5/1緑灰色粘土(未分解の植物遺体含む－一部ラミナ状)である。調査区南半部では1層を切り込み南に下がるA層－10YR7/3にぶい黄橙色粗粒砂～中礫が見られ、河川堆積層と考えられる。A層からは磨耗した土師器・須恵器片が少量出土した。A層は旧長瀬川の一時期の流路の可能性がある。なおA層の湧水・崩落が著しく、調査は困難を極め、3層下部については重機掘削中の観察による。



第3図　断面図(S=1/100)

3．まとめ

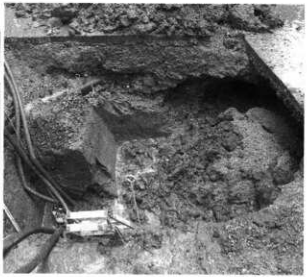
2区A層は河川堆積と考えられるが、切り込み面や時期については不明である。

南西部の老原遺跡においては、T.P.＋8.0～10.0mで古代末～中世の遺構が検出されている。当地が長瀬川の自然堤防上に当たることを考慮すると、当時の生活面はさらに高いものと推察されよう。今回の調査ではT.P.＋8.2～10.6mの層序が未確認であり詳細は不明である。

1区　調査区（北から）

2区　調査区（南から）

1区　掘削状況（南西から）



2区　全景（西から）

1区　北壁

2区　北壁

報 告 書 抄 録

ふりがな	ざいだんほうじん　やおしぶんかざいちょうさけんきゅうかいほうこく93
書　　名	財団法人　　八尾市文化財調査研究会報告93
副 書 名	Ⅰ　田井中遺跡第20次調査　Ⅱ　高安古墳群第４次調査　Ⅲ　東弓削遺跡第15次遺跡
巻　　次	
シリーズ名	財団法人　八尾市文化財調査研究会報告
シリーズ番号	93
編 集 者 名	Ⅰ　岡田清一　Ⅱ・Ⅲ　坪田真一
編 集 機 関	財団法人　八尾市文化財調査研究会
所 在 地	〒581－0821　　大阪府八尾市幸町４丁目58－２　TEL・FAX　072－994－4700
発行年月日	西暦2006年11月30日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査 原因
たいなかいせき 田井中遺跡 (第20次調査)	おおさかふやおしたいなかさちょうめ 大阪府八尾市田井中三丁目	27212	69	34度60分 2秒	135度60分 7秒	20060301 ～ 20060304	16	校舎増 築工事
たかやすこふんぐん 高安古墳群 (第４次調査)	おおさかふやおしおおあざおんぢなかをちちょうめ 大阪府八尾市恩智中町五丁目	27212	12	34度60分 7秒	134度63分 8秒	20051031 ～ 20051130	40	道路拡 幅工事
ひがしゆげいせき 東弓削遺跡 (第15次調査)	おおさかふやおしあげばのちょうとちょうめ 大阪府八尾市曙町二丁目	27212	71	34度60分 9秒	34度60分 9秒	20060801 ～ 20060802	18	廃棄物 処理セ ンター 建替

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構・地層	主な遺物	特記事項
田井中遺跡 (第 20 次調査)	生産	中近世	水田	－	
高安古墳群 (第４次調査)	生産	近世	木組み暗渠	－	
東弓削遺跡 (第 15 次調査)	－	－	－	－	長瀬川の自然堤防上にあたる。

財団法人八尾市文化財調査研究会報告93

Ⅰ　田井中遺跡（第20次調査）
Ⅱ　高安古墳群（第４次調査）
Ⅲ　東弓削遺跡隣接地（第15次調査）

発　行　　平成18年11月
編　集　　財団法人八尾市文化財調査研究会
〒581－0821
大阪府八尾市幸町４丁目58番地の２
TEL・FAX（072）994－4700